

第7回県政戦略会議 議事概要

- 1 開催日時：平成22年9月6日（月）9：15～10：00
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 出席者：知事、副知事、各部局長等
- 4 欠席者：なし
- 5 議事概要：以下のとおり

（ 議題提出部局説明・回答、 意見・質問 ）

〔資料1-1～1-3〕

資料に基づき、説明。

P17 の記述について、「東紀州地域をはじめとする中山間地域・・・」とあるが、必ずしも東紀州地域は中山間地域でないので、記述に工夫されたい。

中山間地域に対する特別な対策は、具体的な事業が想定できないことや、中山間地域をどこまでとするかの定義が難しいことなどから、やめた方がよい。

中山間地域全体に対する取組は難しいかもしれないが、個々の集落に着目する方法もある。これからの地域づくりには必要な考え方ではないか。

中山間地域支援を打ち出すと、中山間地域を抱える市町は期待すると思うが、それに応える県の施策や重点的な取組がない。

政策部から条件不利地域に対する重点事業を提案している。

政策部からの提案している重点事業では、東紀州地域、過疎・離島地域が対象であり、中山間地域までは考えていない。また、県の体制充実や機能充実までは考えていない。

現在、新・過疎法の調整を市町と行っているところであり、考え方については十分整理が必要である。

中山間地域に対する支援を打ち出すと、市町から過大な要求が出てくるという懸念があるとの意見は承った。一方で第二次戦略計画の考え方のままでよいのかということもあるため、再度検討したい。

P10 の「県土づくりの取組」で、三つの視点（「県域全体または県域を越えた視点」、「地域資源の利活用の視点」、「基盤整備の視点」）と記述しながら、その後「産業集積」の視点、「自然・文化」の視点が出てくる。いったい視点はいくつあるのか？

ここは、「県土づくり」の振興方向（2つのゾーン）について、分ける必要がなくなってきたという意味で記述している。

全県一区になるという意味か？

全県一区になるということである。

「産業集積」の視点、「自然・文化」の視点と「視点」という言葉が重なっていることが紛らわしいだけで、「振興方向」という言葉にすればよい。

3つの視点の総括的な記述を入れると良いのではないか？

2つのゾーン分けに関する記述を最初を書くのも一案。一方、第二次戦略計画ではゾーン分けを強調したところであるので、完全に止めてしまうのもどうかと思う。2つのゾーン分けを止めるだけであって、「産業集積」、「自然文化」という考え方がなくなるわけではないのでは。

P16「美し国おこし・三重」に関する記述について、“県民運動”という言葉はこれまでも使っていたのか？

「美し国おこし・三重」の基本計画では使っている。

これまで“県民運動”という言葉は使っていなかったが、「新しい時代の公」による政策展開という観点からは使っても良いのではないかと考え、今回提案した。

P20「美し国おこし・三重」と「美し国おこしプログラム」の違いがわかりにくい。

「美し国おこしプログラム」は確かにわかりにくいと思う。考え方はそのまま、名称については紛らわしいので検討したい。

県民からみたら、「美し国おこし・三重」と「美し国おこしプログラム」は混乱するだろう。考え方はそのまま名称を変えるのがよい。例えば、「常若プログラム」、「ワクドキ・プログラム」、「文化力立県推進プログラム」など。名称については、各部で提案してもらいたい。

P16「・・・人づくりや防災、福祉、環境など・・・」に防犯を加えていただきたい。

地域主権改革が進む中で、県から市町へ事務が移管されている。一方、県と市町で役割分担しながら協力して進めている事業もある。このように今では「県土づくり」、「地域づくり」の概念では整理できないものもあることを認識して欲しい。

今後、9月9日の県政戦略会議で、「美し国おこしプログラム」の名称も含めて固めていきたい。

以上